



猿対策に使われている檻

### ごみ有料化の考えは

平成20年に向け検討中



折井金興 議員

**質問** ごみ減量対策への取り組みと、ごみ有料化の考えは。

**答弁** 町の可燃ごみ総排出量は平成16年度3913トン、平成12年度対比11%増。その内家庭系ごみが1886トンで12年

度対比3%の増となっています。諏訪南行政事務組合（茅野市・富士見町・原村で構成）で一般廃棄物処理基本計画を策定し、事業者役割の明確化・抑制・再利用・再生の促進、環境に配慮した3つの広域的なごみ処理システムの構築などの基本方針を定めました。

数値目標として平成22年度までに一人当たりの排出量を、平成12年度対比2割減を目標としています。ごみ有料化については平成20年に向け検討中です。

**質問** 少子化対策に重点的に予算配分する考えは。

**答弁** 明確なものがかめませんが、具体的なものに対しては支援していくつもりです。趣旨は理解しているのですが、予算的に必要な事業が見えた時点で対応したいと考えます。

**少子化対策は**  
具体的なものに支援をしていく

### 猿に対する緊急対策は 個体数の調整が有効



小池一夫 議員

**質問** 立沢上の鉢巻道路付近で猿数頭が確認され、生息地が八ヶ岳山麓まで拡大している。町や県での緊急対策の必要があると考

えらるが。  
**答弁** 有害鳥獣対策のうち猿対策は、各集落に専門委員会の立ち上げを依頼しました。この委員会からの報告により、移動区域の調査を開始しました。根本的対策は、個体数の調整が最も有効であると考えています。権限のある県から、一定の理解を得られており、本年度は猟友会の協力により60頭の駆除をしましたが、残頭数は昨年と同じでありました。

### 専門職の採用は

実務に対応できる人材を

**質問** 各部門で高度の知識や、技術をもった専門職が必要と考えるが。

**答弁** 採用にあたっての基本的な考え方は、資格取得者で、即実務に対応できる人材を採用する方針です。高度な知識や技術が求められるすべての部門に、人材を確保することは困難ですので、民間に任せられる分野は民間にお願いすることも、選択肢のひとつであると考えています。